

カテゴリ	NO.	前回問番号	設問内容	設問のねらい	選択肢	備考	前回調査回答数
区域	1	問1	居住地区	・分析にあたって必要となる基本情報等	1. 東つつじヶ丘1～2丁目 西つつじヶ丘1～3丁目 仙川町全域 若葉町1丁目 緑ヶ丘全域 2. 東つつじヶ丘3丁目 入間町全域 若葉町2～3丁目 菊野台全域 西つつじヶ丘4丁目 3. 佐須町1～2丁目、4～5丁目 柴崎全域 深大寺東町3～4丁目 深大寺南町1～3丁目 調布ヶ丘3丁目 4. 深大寺北町全域 深大寺東町1～2丁目、5～8丁目 深大寺元町2～5丁目 深大寺南町4～5丁目 5. 布田2～3丁目 国領町1～5丁目、8丁目 佐須町3丁目 調布ヶ丘2丁目 八雲台全域 6. 国領町6～7丁目 染地全域 布田5～6丁目 多摩川6～7丁目 7. 小島町全域 布田1丁目、4丁目 調布ヶ丘1丁目、4丁目 深大寺元町1丁目 下石原1丁目 多摩川1～5丁目 8. 上石原全域 下石原2～3丁目 野水全域 西町全域 富士見町全域 飛田給全域	・ニーズを地区別に把握するための基本的情報として把握	529
本人・家族の状況	2	問3	性別	・分析にあたって必要となる基本情報等	1. 男性 2. 女性 3. その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）	・国調査（F1） ・分析にあたって必要となる基本的情報として把握	550
	3	問2	年齢	・分析にあたって必要となる基本情報等	（13歳以下，14歳，15歳，16歳，17歳，18歳以上） （令和5年 月 日時点）	・国調査（F2） ・分析にあたって必要となる基本的情報として把握	548
	4	問8	所属	・分析にあたって必要となる基本情報等	1. 中学校 2. 高等学校 3. 就業 4. その他	・国調査（F4） ・分析にあたって必要となる基本的情報として把握	
	5	問4	世帯構成	・分析にあたって必要となる基本情報等	1. 二世帯世帯（親と子どもが同居している世帯） 2. 三世帯世帯（祖父母と親、子どもが同居している世帯） 3. その他（ ）	・分析にあたって必要となる基本的情報として把握	550
	6	問5	本人を含めた同居家族の人数	・分析にあたって必要となる基本情報等	1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人以上	・分析にあたって必要となる基本的情報として把握	540
人とのつながり	7	問14～問18	居場所（ほっとできる場所，安心できる場所）と思えるか：①自分の部屋	・居場所，人とのつながりの実態把握	1. そう思う 2. どちらかといえば，そう思う 3. どちらかといえば，そう思わない 4. そう思わない 5. あてはまるものはない，わからない	・国調査（問3） ・主な生活拠点となる各居場所についての意識を把握し，今後の計画策定や施策実施の参考とするほか，国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	
	8	-	居場所と思えるか：②家庭（親せきの家を含む）	-	1. そう思う 2. どちらかといえば，そう思う 3. どちらかといえば，そう思わない 4. そう思わない 5. あてはまるものはない，わからない	-	
	9	-	居場所と思えるか：③学校	-	1. そう思う 2. どちらかといえば，そう思う 3. どちらかといえば，そう思わない 4. そう思わない 5. あてはまるものはない，わからない	-	
	10	-	居場所と思えるか：④地域（図書館，公民館，公園，子ども食堂など，現在住んでいる場所やそこにある建物など）	-	1. そう思う 2. どちらかといえば，そう思う 3. どちらかといえば，そう思わない 4. そう思わない 5. あてはまるものはない，わからない	-	
	11	-	居場所と思えるか：⑤インターネット空間（SNS，YouTubeやオンラインゲームなど）	-	1. そう思う 2. どちらかといえば，そう思う 3. どちらかといえば，そう思わない 4. そう思わない 5. あてはまるものはない，わからない	-	
	12	問19	孤独であると感じることがあるか	・居場所，人とのつながりの実態把握	1. まったくない 2. ほとんどない 3. たまにある 4. 時々ある 5. しばしばある，いつもある	・国調査（問4-2） ・人とのつながりや孤独感に対する意識を把握し，今後の施策実施の参考とするほか，国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	
	13	問19	家族・親せきとのかかわり：①何でも悩みを相談できる人がいる	・他者とのかかわりの実態把握	1. そう思う 2. どちらかといえば，そう思う 3. どちらかといえば，そう思わない 4. そう思わない	・国調査（問5） ・他者とのかかわりに関する意識を把握し，今後の施策の効果的なアプローチを検討する際に参考とするほか，国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	
	14	-	家族・親せきとのかかわり：②こまったときは助けてくれる	-	1. そう思う 2. どちらかといえば，そう思う 3. どちらかといえば，そう思わない 4. そう思わない	-	
	15	-	家族・親せきとのかかわり：③他の人には言えない本音を話せることがある	-	1. そう思う 2. どちらかといえば，そう思う 3. どちらかといえば，そう思わない 4. そう思わない	-	

カテゴリ	NO.	前回問番号	設問内容	設問のねらい	選択肢	備考	前回調査 回答数
他者との かかわり	16	問19	学校で出会った友達とのかかわり：①何でも悩みを相談できる人がいる	・他者とのかかわりの実態把握	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない	・国調査（問6） ・他者とのかかわりに関する意識を把握し、今後の施策の効果的なアプローチを検討する際に参考とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	
	17	-	学校で出会った友達とのかかわり：②こまったときは助けてくれる	-	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない	-	
	18	-	学校で出会った友達とのかかわり：③他の人には言えない本音を話せることがある	-	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない	-	
	19	問19	地域の人（近所の人、塾や習い事での友だちなど）とのかかわり：①何でも悩みを相談できる人がいる	・他者とのかかわりの実態把握	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない	・国調査（問7） ・他者とのかかわりに関する意識を把握し、今後の施策の効果的なアプローチを検討する際に参考とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	
	20	-	地域の人（近所の人、塾や習い事での友だちなど）とのかかわり：②こまったときは助けてくれる	-	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない	-	
	21	-	地域の人（近所の人、塾や習い事での友だちなど）とのかかわり：③他の人には言えない本音を話せることがある	-	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない	-	
	22	問19	インターネット上における人やグループとのかかわり：①何でも悩みを相談できる人がいる	・他者とのかかわりの実態把握	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない	・国調査（問8） ・他者とのかかわりに関する意識を把握し、今後の施策の効果的なアプローチを検討する際に参考とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	
	23	-	インターネット上における人やグループとのかかわり：②こまったときは助けてくれる	-	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない	-	
24	-	インターネット上における人やグループとのかかわり：③他の人には言えない本音を話せることがある	-	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない	-		
普段の活動	25	問23	ふだん家にいるときに、どんなことに時間を使っているか（いくつでも）	・日常生活の実態把握	1. テレビを見る 2. ラジオを聴く 3. 本を読む 4. 新聞を読む 5. ゲームをする 6. 勉強をする 7. 仕事をする 8. 家事・育児をする 9. 家族の看病をしたり、お世話をする 10. インターネットを利用（スマートフォンやパソコンを利用したウェブ閲覧、SNS利用など） 11. 運動をする（身体を動かす） 12. あてはまるものはない	・国調査（問13） ・生活実態を把握し計画策定に向けた参考とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	551
	26	問24-1	授業や仕事以外のインターネット（オンラインゲームを含む）の利用時間	・インターネットの利用状況把握（ネット依存の傾向把握）	1. 1時間以内 2. 1～2時間 3. 2～3時間 4. 3～4時間 5. 4～5時間 6. 5時間以上	・インターネットの利用状況と、ネット依存の傾向を把握する	539
	27	問25	ソーシャルメディア・通信手段などのうち、ふだん利用しているものは（いくつでも）	・インターネット等の利用状況把握	1. 電話（アプリによる通話を含む） 2. メール（携帯電話・パソコンなど） 3. Facebook 4. X（旧Twitter） 5. Instagram 6. LINE 7. その他のSNS・チャットアプリ 8. ウェブサイト（電子掲示板・ウェブログを含む） 9. その他（ ）	・インターネット等の利用状況を把握する ・今後の施策の効果的なアプローチを検討する際に参考とする	547

カテゴリ	NO.	前回問番号	設問内容	設問のねらい	選択肢	備考	前回調査 回答数
外出状況	28	問26	ふだんの外出状況 (ひとつだけ)	・日常生活の実態把握（ひきこもりの実態把握）	1. 学校、習い事、仕事などで平日は毎日、外に出かける 2. 学校、習い事、仕事などで週に3～4日、外に出かける 3. 遊びなどでよく外に出かける 4. 人づきあいのためにときどき外に出かける 5. ふだんは家にいるが、自分の趣味などの用事のときだけ外に出かける 6. ふだんは家にいるが、近くのコンビニなどには出かける 7. 自分の部屋からは出るが、家からは出ない 8. 自分の部屋からほとんど出ない	・国調査（問14） ・普段の外出状況等からひきこもりの実態を把握し、効果的な対策を行うための検討材料とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	552
	29	問26-1	外出状況が今ようになってからの期間	・日常生活の実態把握（ひきこもりの実態把握）	1. 3か月未満 2. 3か月～6か月未満 3. 6か月～1年未満 4. 1年～2年未満 5. 2年～3年未満 6. 3年～5年未満 7. 5年以上	・国調査（問15） ※前設問で選択肢5～8を選んだ方のみへの設問 ・普段の外出状況等からひきこもりの実態を把握し、効果的な対策を行うための検討材料とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	20
	30	問26-2	外出状況が今ようになった年齢	・日常生活の実態把握（ひきこもりの実態把握）	1. 12歳以下 2. 13歳 3. 14歳 4. 15歳 5. 16歳 6. 17歳 7. 18歳以上	・国調査（問16） ※設問NO.29で選択肢3～7を選んだ方のみへの設問 ・普段の外出状況等からひきこもりの実態を把握し、効果的な対策を行うための検討材料とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	
	31	問26-2	外出状況が今ようになった主な理由（いくつでも）	・日常生活の実態把握（ひきこもりの実態把握）	1. 学校（または職場）にうまくなじめなかったこと 2. 小学生のときの不登校 3. 中学生のときの不登校 4. 高校生のときの不登校 5. 受験がうまくいかなかったこと 6. まわりの人とのつき合いがうまくいかなかったこと 7. 病気（病名： ） 8. 家族の看病やお世話をすることになったこと 9. 新型コロナウイルスが流行したこと 10. その他（具体的に： ） 11. 特に理由はない 12. わからない	・国調査（問17-1） ※設問NO.29で選択肢3～7を選んだ方のみへの設問 ・普段の外出状況等からひきこもりの実態を把握し、効果的な対策を行うための検討材料とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	
	32	問26-2	外出状況が今ようになった最も大きな理由（ひとつだけ）	・日常生活の実態把握（ひきこもりの実態把握）	1. 学校（または職場）にうまくなじめなかったこと 2. 小学生のときの不登校 3. 中学生のときの不登校 4. 高校生のときの不登校 5. 受験がうまくいかなかったこと 6. まわりの人とのつき合いがうまくいかなかったこと 7. 病気（病名： ） 8. 家族の看病やお世話をすることになったこと 9. 新型コロナウイルスが流行したこと 10. その他（具体的に： ） 11. 特に理由はない 12. わからない	・国調査（問17-2） ※前設問で選択肢1～10を選んだ方のみへの設問 ・普段の外出状況等からひきこもりの実態を把握し、効果的な対策を行うための検討材料とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	
	33		現在、市内の子ども施設を利用しているか：①児童館	・日常生活の実態把握（ひきこもりの実態把握）	1. 年に5～6回程度利用している 2. 月に1回程度利用している 3. 週に1回程度利用している 4. 週に2回以上利用している 5. 利用していない	・利用状況を把握、周知等の検討	
	34		現在、市内の子ども施設を利用しているか：②青少年ステーションCAPS		1. 年に5～6回程度利用している 2. 月に1回程度利用している 3. 週に1回程度利用している 4. 週に2回以上利用している 5. 利用していない	・利用状況を把握、周知等の検討	
	35		現在、市内の子ども施設を利用しているか：③子ども・若者支援事業ここあ		1. 年に5～6回程度利用している 2. 月に1回程度利用している 3. 週に1回程度利用している 4. 週に2回以上利用している 5. 利用していない	・利用状況を把握、周知等の検討	
36		最近6か月間に、家族以外の人と会話したか	・日常生活の実態把握（ひきこもりの実態把握）	1. よく会話した 2. ときどき会話した 3. ほとんど会話しなかった 4. まったく会話しなかった	・国調査（問18） ・普段の外出状況等からひきこもりの実態を把握し、効果的な対策を行うための検討材料とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする		

カテゴリ	NO.	前回問番号	設問内容	設問のねらい	選択肢	備考	前回調査 回答数
落ち込んだ経験	37		今までに、ものごとがうまくいかず落ち込んだ経験があったと思うか、または現在あるか	・日常生活の実態把握（ひきこもりの実態把握）	1. あった（または、現在ある） 2. どちらかといえば、あった（ある） 3. どちらかといえば、なかった（ない） 4. なかった（ない） 5. わからない、答えられない	・国調査（問19） ・落ち込んだ経験やその改善事例の実態を把握し、今後の施策の検討材料とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	
	38		落ち込んだ経験から元にもどった経験	・日常生活の実態把握（ひきこもりの実態把握）	1. あった 2. どちらかといえば、あった 3. どちらかといえば、なかった 4. なかった 5. わからない	・国調査（問20） ※設問NO.37（ものごとがうまくいかず落ち込んだ経験の有無）で選択肢1, 2を選んだ方のみへの設問 ・落ち込んだ経験やその改善事例の実態を把握し、今後の施策の検討材料とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	
	39		落ち込んだ状態から元にもどったきっかけ（いくつでも）	・日常生活の実態把握（ひきこもりの実態把握）	1. 家族や親せきの助け 2. 友だちの助け 3. 学校の先生に相談したこと 4. スクールカウンセラーなど学校にいる専門家に相談したこと 5. 地域の人の助け 6. 病院に行って相談したこと 7. 相談できる場所に行って相談したこと 8. 電話相談を利用したこと 9. SNSやメール相談などを利用したこと 10. 同じようにうまくいかなかった経験をした人に話してみたこと 11. 趣味の活動に参加したこと 12. 時間がたつて状況が変化したこと 13. 引っ越しや転校（転職）、クラス替え（転勤）などがあって、まわりの環境が変わったこと 14. 自分の努力で乗り越えたこと 15. その他（具体的に： ） 16. わからない、答えられない	・国調査（問21） ※設問NO.38（落ち込んだ経験から元にもどった経験の有無）で選択肢1, 2を選んだ方のみへの設問 ・落ち込んだ経験やその改善事例の実態を把握し、今後の施策の検討材料とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	
	40	問26-3 問26-4	ものごとがうまくいかず落ち込んだときに、どういった人なら、相談したり、助けてもらったりしやすいと感じるか（いくつでも）	・日常生活の実態把握（ひきこもりの実態把握）	1. 家族や親せき 2. 学校（職場）の友だち 3. 地域の友だち 4. 先輩や後輩 5. 学校の先生 6. スクールカウンセラーなど学校にいる専門家 7. 地域の人 8. 病院や相談できる場所などにいる専門家（学校以外の専門家） 9. 同じように落ち込んだ経験をした人たち 10. その他（具体的に： ） 11. 誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない 12. わからない	・国調査（問22） ・落ち込んだ経験やその改善事例の実態を把握し、今後の施策の検討材料とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	5
	41	問26-5	誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない理由（いくつでも）	・日常生活の実態把握（ひきこもりの実態把握）	1. 相談しても解決できないと思うから 2. 自分ひとりで解決すべきだと思うから 3. 誰にも知られたくないことだから 4. 自分が変な人に思われるのではないかと不安だから 5. 自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから 6. 相手がどんな人かわからないから 7. 何を聞かれるか不安に思うから 8. 嫌なこと、できないことをするように言われそうだから 9. 相手のうまく伝えられないから 10. 裏切られたり、失望するのが嫌だから 11. お金がかかると思うから 12. その他（具体的に： ） 13. 特に理由はない、わからない	・国調査（問23） ※設問NO.40で選択肢1を選んだ方のみへの設問 ・落ち込んだ経験やその改善事例の実態を把握し、今後の施策の検討材料とするほか、国調査と同内容とすることで市との比較材料とする	16
	42	問20	家庭や学校（職場）以外で、悩みやこまりごとなどを相談できる場所があることを知っているか	・認知度把握	1. 知っているし、相談している（したことがある） 2. 知っているが、相談したことはない 3. 知らないが、相談してみたい 4. 知らないが、特に相談したいと思わない 5. 分からない	・国調査（問24） ・相談機関等の認知状況、利用状況の把握、周知等の検討	542
相談・支援	43		知っているし、相談している（したことがある）方に、進学や就職のタイミングで、今までの相談先の支援が途切れて、不安に感じた経験があるか	・今後の施策検討に活用	1. はい 2. いいえ	※設問NO.42で選択肢1を選んだ方のみへの設問 ・制度の狭間での実態を把握し、今後の施策検討に活用	

カテゴリ	NO.	前回問番号	設問内容	設問のねらい	選択肢	備考	前回調査 回答数
子どもの 権利や子 ども条例 について の認知状 況	44		子どもの権利についての認知度・ 希望 ※要解説	・認知度の把握	1.まったく知らない2.言葉だけ知っている3.知っている	・子どもの権利と調布市子ども条例の認知状況 の把握, 周知等の検討	
	45		調布市子ども条例の認知度・希望 ※要解説	・認知度の把握	1.まったく知らない2.言葉だけ知っている3.知っている	・子どもの権利と調布市子ども条例の認知状況 の把握, 周知等の検討	
	46		子どもの権利で大切だと思うこと (いくつでも)	・子どもにとっての重要視される 権利を把握	1.差別されないこと2.悪口を言われたり、仲間はずれにされたりしないこと3.子どもにとって一番よいことは何か考えてくれること4.安心して生きること5.自分が学びたい通り学んで、成長すること5.自分の意見を自由に答えること6.子ども同士で集まったり一緒に何かをするためのグループを作ったりすること7.親から叩かれたり、ひどい目にあわされたりしないこと8.病院に行ったり、健康を守ってもらえたりすること8.生活のためのお金が足りない時に、国から助けてもらうこと9.愛されて幸せな生活を送ること10.心や体が十分に成長する教育を受けること11.休んだり遊んだりすること12.スポーツや芸術を楽しむ活動に参加すること13.戦争に巻き込まれないで平和に生活すること	・子どもの権利と調布市子ども条例の認知状況 の把握, 周知等の検討	
	47		上記を守るためにどんな仕組みが あればいいか (いくつでも)	・権利尊重の仕組みづくりの検討	1. 学校で教える 2. 困ったことや大人に伝えたいことを伝える手助けをしてくれる人がいる 3. 困った時に電話やSNS、メールなどで相談できる 4. 大人に子どもの権利についてもっと伝える 5. 困った時に誰にも知られず相談できる場所がある 6. 子どもの権利が守られているかを見張る仕組みがある 7. 子どもが意見を言える仕組みがある 8. 特になし	・子どもの権利と調布市子ども条例の認知状況 の把握, 周知等の検討	
子どもの 意見の尊 重, 子ど もの希望 や将来の 状況	48		父親, 母親, 学校の先生等の周囲 の大人はあなたのことについて決 めるときに, あなたの意見を聞いて 大事にしてくれていると思うか		1.とてもそう思う, 2.そう思う, 3.どちらとも言えない, 4.そう思わない, 5.まったく思わない	・子どもの意見の尊重に関する意識の把握	
	49		将来, どの段階まで進学したいか		1. 中学校 2. 高等学校 3. 専修学校・専門学校 4. 高等専門学校・短期大学 5. 大学・大学院 6. その他(具体的に:) 7. わからない	・将来の展望についての意識把握	
	50		上記の理由 (いくつでも)	・進学の希望と現状の把握 ・希望の進路が叶う状況か ・希望の進路の支援策の検討	1. 自分が望んでいるから 2. 親がそう望んでいるから 3. 一般的な進路だと思うから 4. 自分の学力から考えて 5. 家庭の経済的な状況から考えて 6. その他(具体的に:) 7. 特に理由はない	・将来の展望についての意識把握	
その他	51		現在, 悩みごと, 困っていること はあるか	・今後の施策検討に活用	フリー入力	・今後の施策検討に活用	
	52	問27	調布市が特に取り組むべきこと (いくつでも)	・今後の施策検討に活用	1. 気軽に悩みなどを相談できる場所や機会の充実 2. 就労(仕事につくこと)に向けた相談やサポート体制の充実 3. 若者たちが自主的に活動できる場所や機会の充実 4. 年齢や経済的な心配をすることなく, 学習・学び直しができる環境・機会の充実 5. ニート, ひきこもり, 不登校の子ども・若者の支援の充実 6. 障害のある子ども・若者の支援の充実 7. 児童虐待防止に向けた取組の強化 8. 不健全図書類やインターネット上の有害環境から青少年を守る取組の充実 9. 地域における見守りなど非行防止対策の充実 10. その他() 11. 特になし	・今後の施策検討に活用	77